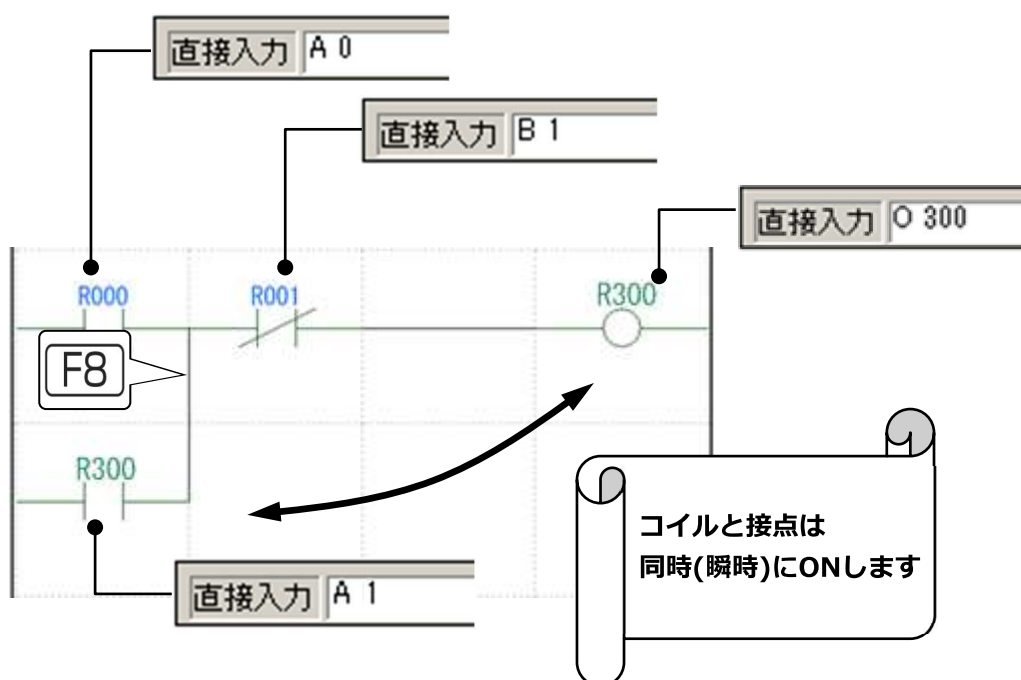


2.11. ラダープログラムの作成⑤（自己保持回路Ⅰ）

接点が一度ONすると、出力がONしつづける回路を自己保持回路と呼びます。
ラダープログラムを作成して実際に動作を確認してみましょう。

■ 例題7：自己保持回路のプログラム

スイッチR000をONするとランプR300がONします。
スイッチR000をOFFしてもランプR300がONしつづけます。
スイッチR001をONするとランプR300がOFFします。



！ ポイント

上記の回路は、自己保持回路と呼ばれています。
プログラムの動作は、入力 R000 が入った瞬間、出力 R300 が ON します。そのとき、2 行目の接点 R300 も ON します。
したがって、入力 R000 が OFF しても、R300 自身が ON しているため自分で自分の出力を ON し続ける（保持する）こととなります。
入力が短い時間（ワンショット）で入力される時の制御に役に立つ基本的な回路です。

注意： 自己保持回路には必ずリセット入力を記述しましょう。
（今回は入力 R001 がリセット入力）

2.12. ラダープログラムの作成⑥（自己保持回路Ⅱ）

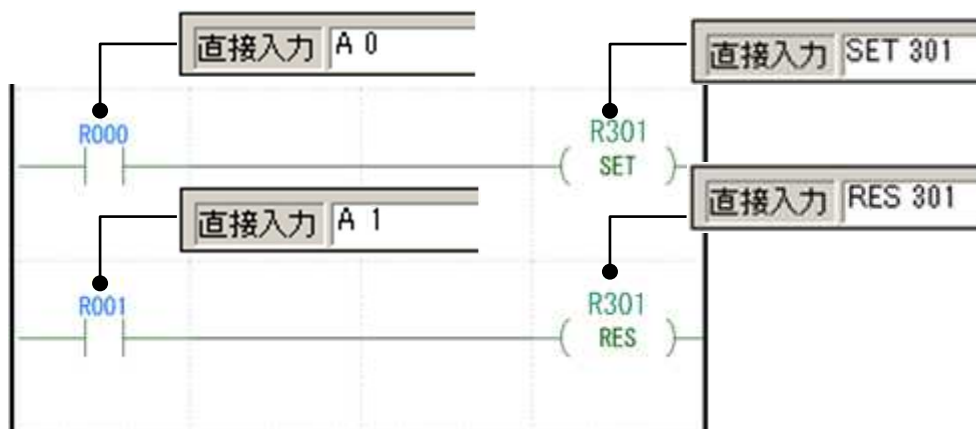
例題7のプログラムと同じ動作をする命令語に、SET・RES命令やKEEP命令があります。

■ 例題8：自己保持回路のプログラム（SET、RES）

スイッチR000をONするとランプR301がONします。

スイッチR000をOFFしてもランプR301がONしつづけます。

スイッチR001をONするとランプR301がOFFします。



！ ポイント

SET・RES命令はどちらを先に記述しても、プログラムの後に記述したほうが優先されます。（上記ラダープログラムを動作させると、接点R000、R001がONした場合、出力R301はONしません。）